

## シリーズ第43話

日本人の3人に1人は痔主さん、  
朗報ですよ！

平成19年7月に連載がスタートしたほのか診察室は、第1話が痔に関するものでした。そのなかで「痔」という表現は、肛門のさまざまな病状を総称する言葉で、肛門3大疾患としては痔核（一般的にいぼ痔・脱肛）、裂肛（一般的に切れ痔）、肛門周囲膿瘍・痔瘻（一般的には腫れ痔）があります。

今回はそのなかで最も多い疾患である痔核についてお話をします。肛門と直腸下端の周辺には網の目のような静脈があります。この静脈がふく膨らんでこぶ状になったもの（静脈瘤）が痔核の本体です。肛門への負担が重なると、痔核が腫れ、また痔核を支える組織（支持組織）が弱くなり、痔核が肛門の外に出たりするようになります。肛門より痔核が直腸側にできるも

のを内痔核、肛門の外側にできるものを外痔核といい、さらに肛門の外側に大きく飛び出したものを脱肛といいます。痔核の症状は、下着に血液が付着する、排便時に痛みがある、肛門からなにか飛び出してくる、残便感がある、排便後おしりを拭くと紙に血液が付着するなどさまざまです。

日本人の3人に1人は痔主さんといわれますが、これは人類が直立歩行を行うようになったことが原因で、肛門が心臓よりも低い位置となり、静脈にかかる圧力が高くなり血液が肛門にうっ滞しやすくなったからです。四つん這いの動物には痔核がないことからわかります。長時間立ちっぱなしや、座りっぱなしの生活習慣は痔核を発生させると考えられ、排便時の強い



新城市市民病院  
消化器科・外科  
診療部長 横井佳博

きみも悪影響を及ぼします。また加齢とともに、肛門の支持組織が弱くなり、痔核が肛門外に脱出しやすくなったり、酒・辛子や胡椒などの刺激物のとりすぎは、出血や腫れを憎悪させます。女性は妊娠・出産で悪化します。

痔核の治療には、内服や座薬などによる保存的治療や手術療法がありますが、最近、「ジオン注」による硬化療法が注目を浴びています。これは、脱出を伴う内痔核にジオンという硬化剤を注射して、痔の血液の流れを止め、痔を硬くして粘膜に癒着・固定させる治療法で、当院でも始めています。ジオン注を投与する前に、下半身だけに効く麻酔を行い、肛門周囲の筋肉を緩め注射しやすくします。複数の痔核がある場合はそれぞれ

に投与します。治療後は早い時期に痔核へ流れ込む血液の量が減り出血が止まり、脱出の程度も軽くなります。1週間から1カ月程度で痔核が徐々に小さくなり、引き伸ばされていた支持組織が元の位置に癒着・固定して、脱出がみられなくなります。痔核を切除する手術と違って、痛みを感じない部分に注射するので、痛みは少なく、また切除しないので出血もほとんどみられません。入院期間も術後1、3日間と短く、早い社会復帰が期待できます。どうしても切りたくない方や、合併症のある方には良い方法です。ただし、切除するという根治手術ではないため再発の可能性があります。また、痔核の種類や重症度で使えない場合や切除に併用する場合があります。ご相談ください。

痔は決して恥ずかしい病気ではありません。今度受診すればいいと考えているうちに、痔主になってしまいます。また痔の症状とまぎらわしい大腸癌にも注意が必要です。痔主の方は一度、専門医を受診しましょう。